



BEA AquaLogic Interaction Analytics

インストールおよび
アップグレード ガイド

バージョン 2.0 TM

ドキュメントの改訂：2006 年 9 月 1 日

Copyright

Copyright © 1995-2006 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

Restricted Rights Legend

This software is protected by copyright, and may be protected by patent laws. No copying or other use of this software is permitted unless you have entered into a license agreement with BEA authorizing such use. This document is protected by copyright and may not be copied photocopied, reproduced, translated, or reduced to any electronic medium or machine readable form, in whole or in part, without prior consent, in writing, from BEA Systems, Inc.

Information in this document is subject to change without notice and does not represent a commitment on the part of BEA Systems. THE DOCUMENTATION IS PROVIDED “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. FURTHER, BEA SYSTEMS DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE USE, OR THE RESULTS OF THE USE, OF THE DOCUMENT IN TERMS OF CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, OR OTHERWISE.

Trademarks and Service Marks

Copyright © 1995-2005 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved. BEA, BEA JRockit, BEA WebLogic Portal, BEA WebLogic Server, BEA WebLogic Workshop, Built on BEA, Jolt, JoltBeans, SteelThread, Top End, Tuxedo, and WebLogic are registered trademarks of BEA Systems, Inc. BEA AquaLogic, BEA AquaLogic Data Services Platform, BEA AquaLogic Enterprise Security, BEA AquaLogic Service Bus, BEA AquaLogic Service Registry, BEA Builder, BEA Campaign Manager for WebLogic, BEA eLink, BEA Liquid Data for WebLogic, BEA Manager, BEA MessageQ, BEA WebLogic Commerce Server, BEA WebLogic Communications Platform, BEA WebLogic Enterprise, BEA WebLogic Enterprise Platform, BEA WebLogic Enterprise Security, BEA WebLogic Express, BEA WebLogic Integration, BEA WebLogic Java Adapter for Mainframe, BEA WebLogic JDriver, BEA WebLogic Log Central, BEA WebLogic Network Gatekeeper, BEA WebLogic Personalization Server, BEA WebLogic Personal Messaging API, BEA WebLogic Platform, BEA WebLogic Portlets for Groupware Integration, BEA WebLogic Server Process Edition, BEA WebLogic SIP Server, BEA WebLogic WorkGroup Edition, Dev2Dev, Liquid Computing, and Think Liquid are trademarks of BEA Systems, Inc. BEA Mission Critical Support, BEA Mission Critical Support Continuum, and BEA SOA Self Assessment are service marks of BEA Systems, Inc.

All other names and marks are property of their respective owners.

目次

1. ようこそ

このマニュアルの使用方法	1-1
対象ユーザー	1-1
構成	1-2
記述方法	1-2
BEA のドキュメントおよびリソース	1-3

2. インストール要件

ハードウェアおよびソフトウェアの要件	2-2
Analytics で必要なポート	2-4

3. クイックスタートの概要

インストール	3-1
Analytics サービスのインストール	3-2
Analytics データベースの設定	3-2
Microsoft SQL Server データベースの作成と設定	3-2
Oracle データベースの作成と設定	3-4
Analytics の設定	3-5
Interaction コンポーネントのインストール	3-6
Image Service コンポーネントのインストール	3-7
Automation Service コンポーネントのインストール	3-7
Analytics サービスおよびポータル サービスの開始	3-8
ポータルへの Analytics の登録	3-8
Automation Service への Analytics ジョブの追加	3-9
アップグレード	3-10
アップグレードパス	3-10
Analytics のアップグレード	3-10
Analytics バージョン 1.2 から 2.0 へのアップグレード	3-10

Analytics バージョン 1.1 から 2.0 へのアップグレード.....	3-12
---	------

4. インストール

Analytics サービスのインストール	4-2
Analytics データベースの設定	4-4
Microsoft SQL Server データベースの作成と設定.....	4-4
Oracle データベースの作成と設定	4-6
Analytics の設定.....	4-8
Interaction コンポーネントのインストール.....	4-14
Image Service コンポーネントのインストール.....	4-16
Automation Service コンポーネントのインストール	4-17
Analytics サービスおよびポータル サービスの開始.....	4-19
Windows での Analytics サービスおよびポータル サービスの開始.....	4-19
UNIX および Linux での Analytics サービスおよびポータル サービスの開始..	4-19
ポータルへの Analytics の登録.....	4-20
Automation Service への Analytics ジョブの追加	4-21

5. アップグレード

アップグレードパス	5-1
Analytics バージョン 1.2 から Analytics 2.0 へのアップグレード.....	5-2
Analytics バージョン 1.1 から 2.0 へのアップグレード.....	5-5

A. トラブルシューティング

インストール ログおよび設定ログの概要.....	A-2
インストール時および設定時の一般的な問題のトラブルシューティング.....	A-4

B. Analytics のアンインストール

Windows での Analytics のアンインストール.....	B-1
UNIX/Linux での Analytics のアンインストール	B-2

索引

ようこそ

このマニュアルでは、BEA AquaLogic Interaction Analytics (「Analytics」) 2.0 を、Windows、UNIX、Linux プラットフォームにインストールおよび導入する方法について説明します。また、以前のバージョンから Analytics 2.0 にアップグレードする手順についても説明します。

注意：「BEA AquaLogic Interaction Analytics」の旧称は「Plumtree Analytics」です。ただし、このマニュアルでは、ポータル オブジェクトの名前が以前の Plumtree 名のまになっている場合があります。また、ポータルのインストール パスの例に、BEA ディレクトリではなく Plumtree ディレクトリが含まれている場合もあります。

このマニュアルの使用法

対象ユーザー

このマニュアルは、Analytics のインストールおよびアップグレードを担当する管理者を対象にしています。

このマニュアルでは、読者がプラットフォームのオペレーティング システム、データベース、ウェブ サーバー、アプリケーション サーバー、および Analytics のインストールに必要なその他のサードパーティ ソフトウェアの知識を習得していることを前提としています。

構成

- この章では、Analytics の概要について説明し、Analytics コンポーネントのインストール、導入、アップグレード、および管理の参考になるリソースを紹介します。
- 第 2 章、「インストール要件」では、ハードウェアおよびソフトウェアの要件、その他のサードパーティ ソフトウェアの要件について説明します。インストールやアップグレードを行う前には、必ずこの章に目を通して要件が満たされるようにしてください。
- 第 3 章、「クイックスタートの概要」では、Analytics のインストール手順およびアップグレード手順のハイレベルな概要を説明します。経験豊富な Analytics 管理者が Analytics をすばやくインストールおよびアップグレードするのに十分な情報を提供します。また、クロス リファレンスによって他の章に記載された詳細な手順を参照できます。
- 第 4 章、「インストール」では、Analytics のインストールおよび設定の手順を詳細に説明します。
- 第 5 章、「アップグレード」では、Analytics 2.0 のアップグレード手順を詳細に説明します。

記述方法

このマニュアルでは、以下の記述方法を使用します。

表 1-1 記述方法

項目	記述方法	例
<ul style="list-style-type: none">• ファイル名• フォルダ名• 画面要素	太字	<ul style="list-style-type: none">• Procedures.doc をポータルにアップロードします。• General フォルダを開きます。• 変更内容を保存するには、[変更を適用] をクリックします。
<ul style="list-style-type: none">• 入力するテキスト	コンピュータ フォント	<ul style="list-style-type: none">• コミュニティの名前に Marketing と入力します。

表 1-1 記述方法

項目	記述方法	例
<ul style="list-style-type: none"> 入力する変数 	コンピュータ フォント、斜 め体	<ul style="list-style-type: none"> ポートレット サーバーのベース URL を入力し てください。例: <code>http://my_computer/</code>。
<ul style="list-style-type: none"> ポータル オブジェ クト名の例 	斜め体	<ul style="list-style-type: none"> 図 5 のナレッジ ディレクトリの例は、<i>Human Resources</i> フォルダです。

BEA のドキュメントおよびリソース

この節では、BEA が提供しているドキュメントとリソースについて説明します。

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース (3 の 1)

リソース	説明
管理者用ガイド	このマニュアルでは、Analytics の管理、メンテナンス、およびトラブルシューティングの方法について説明しています。 リリース パッケージおよび edocs.beasys.co.jp/e-docs から電子形式 (PDF) で入手できます。
リリース ノート	Analytics 管理者用のファイルです。そのリリースに含まれている新しい機能や既知の問題に関する情報が含まれています。 edocs.beasys.co.jp/e-docs/ から電子形式 (HTML) で入手できます。
開発者用ガイド、記事、API 関連資料、ブログ、ニュースグループ、およびサンプル コード	これらの開発者用リソースは、BEA dev2dev サイト (www.beasys.co.jp/dev2dev/) から入手できます。AquaLogic User Interaction を使用してカスタム アプリケーションを構築する方法や、AquaLogic User Interaction 製品およびその機能をカスタマイズする方法について説明しています。
導入ガイド	ビジネス アナリストやシステム管理者向けの資料です。BEA AquaLogic User Interaction の導入計画の策定方法について説明しています。 edocs.beasys.co.jp/e-docs/ から電子形式 (PDF) で入手できます。

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース (3 の 2)

リソース	説明
オンライン ヘルプ	<p>オンライン ヘルプは、すべてのレベルの Analytics ユーザーが利用できます。Analytics のユーザー インタフェースの説明、およびコンソールやポータルで作業を行うための詳細手順が記載されています。オンライン ヘルプにアクセスするには、ポータル バナーまたはコンソール ページの右上の端に表示されている  [ヘルプ] をクリックしてください。</p>
AquaLogic User Interaction Support Center	<p>AquaLogic User Interaction Support Center は、AquaLogic User Interaction 製品に関する技術情報の総合的なリポジトリです。Support Center では、製品やドキュメントへのアクセス、ナレッジベースの記事の検索、最新のニュースや情報の参照、サポート コミュニティへの参加、トレーニングの受講、AquaLogic User Interaction 関連のニーズに適合するツールの入手を行うことができます。Support Center には次のコミュニティが含まれています。</p> <p>Technical Support Center</p> <p>サポート問題や機能要求の提出および追跡、ナレッジベースの検索、資料の入手、サービス バックおよびホット フィックスのダウンロード等を行うことができます。</p> <p>News & Events</p> <p>News & Events Center は、導入の展開に関する情報を提供します。Super User Group ページでは、他の開発者と情報交換したり、最新のミーティング内容を表示したりできます。</p> <p>Product Center</p> <p>製品のダウンロード、リリース ノートの参照、最新の製品資料の入手、インターオペラビリティに関する情報の入手などが可能です。</p> <p>Education Center</p> <p>トレーニング コースに関する情報の入手、トレーニング クレジットの購入、受講するための登録を行うことができます。</p> <p>次のサイトにログインしても Support Center が表示されない場合は、アクセス権を得るために support-alui.jp@bea.com にお問い合わせください。</p> <p>http://portal.plumtree.com</p>

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース (3 の 3)

リソース	説明
www.beasys.co.jp/dev2dev/	開発者用のツールや資料をダウンロードしたり、開発プロジェクトに対してサポートを得たり、BEA の dev2dev ニュースグループを通じて他の開発者と連絡を取ることができます。
技術サポート	<p>上記のリソースを使用しても問題を解決できない場合は、BEA 技術サポートにお問い合わせください。弊社のスタッフが、24 時間 365 日体制でお客様の技術サポート ニーズに対応致します。</p> <p>電子メール: support-alui.jp@bea.com</p> <p>電話番号:</p> <p>米国およびカナダ +1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)</p> <p>アジア パシフィック +61 2.9931.7822</p> <p>ヨーロッパと英国 +44 (0) 1628 589124</p> <p>フランス +33 1.46.91.86.79</p> <p>シンガポール +65 6832.7747</p>

ようこそ

インストール要件

次の基本手順に従って、導入に備えてネットワークおよびホスト コンピュータを準備します。

1. 導入の進め方に影響をもたらす可能性のある、互換性の問題、既知の問題、および回避策に関する情報について、製品のリリース ノートを参照します。リリース ノートは、製品パッケージのトップレベル ディレクトリにあります。
2. Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメント (**[Analytics_Installation_and_Configuration_Worksheets.pdf](#)**) の設定ワークシートを印刷します。
3. この導入で割り当てた値を特定し、それらの値を Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに記録します。
4. 導入に備えてホスト コンピュータをプロビジョニングして、必要なソフトウェアをインストールします。詳細については、[2-2 ページの「ハードウェアおよびソフトウェアの要件」](#)を参照してください。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

次の表に、Analytics に必要なハードウェア、オペレーティング システム、およびソフトウェアの要件をまとめます。

警告： IPv6 はサポートされていません。Analytics をインストールする前に、IPv6 が無効になっていることを確認してください。

注意： サポートされるバージョンの最新リストについては、Support Center の [Interoperability] ページを参照してください。

表 2-1 ハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	要件
Analytics ホスト コンピュータ	ハードウェア
	<ul style="list-style-type: none">1.6 GHz 以上、L2 キャッシュ 2MBメモリ 1 GBディスク容量 2 GB
	オペレーティング システム
	<ul style="list-style-type: none">Windows 2003 Server SP1x86 搭載の Red Hat Enterprise Linux 3 Update 3 (ES & AS)x86 搭載の SUSE Linux 9POWER3、POWER4、POWER5 搭載の AIX 5.3SPARC 搭載の Solaris 8 および 9

表 2-1 ハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	要件
データベース サーバー ホスト コンピュータ	<p>ハードウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> デュアル 2.0 GHz 以上、L2 キャッシュ 2MB メモリ 2 GB 以上 ミラーリングされた SCSI ドライブ (15K または 10K RPM) Analytics データマートのデータ量の増加に対応できるディスク容量。データ量の増加は、発生するイベントの数と密接に関係しています。イベントには、ページビュー、ポートレットビュー、ユーザー ログイン、ディスカッション投稿などがあります。100 万件のイベントを格納するのに、約 100 MB のディスク容量が必要になります。例えば、ポータルで 1 日に受信するイベントが 100 万件だとすると、1 年間で 36.5 GB のディスク容量が必要になる計算です。 <p>ソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> Microsoft SQL Server 2000 SP3a (Windows のみ) Oracle 9.0.2.5 以上 (デフォルトまたは Oracle RAC 設定) Oracle 10.1.0.3 以上 (デフォルトまたは Oracle RAC 設定)
対応ポータル バージョン	<ul style="list-style-type: none"> Plumtree Corporate Portal 5.0.5、Plumtree Corporate Portal 5.0.5J Plumtree Foundation 6.0 SP1
ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Internet Explorer 5.5 以上 Netscape Navigator 7.1 以上 Mozilla Firefox 1.0 以上
Collaboration	<ul style="list-style-type: none"> Collaboration 4.0.2 以上
Publisher	<ul style="list-style-type: none"> Publisher 6.1 以上
Studio	<ul style="list-style-type: none"> Studio 2.0.3 以上 <p>注意： Analytics には、Studio 固有のレポートは含まれていません。この要件は、基本的な互換性を確保するためのものです。</p>

インストール要件

注意： システム PATH 環境変数に、現在のディレクトリへの参照が含まれていることを確認してください。現在のディレクトリへの参照を追加するには、パスの先頭にピリオド「.」を追加します。以下に例を示します。

- UNIX および Linux の例 `:export PATH=.:SPATH`
- Windows の例 `:set PATH=.;%PATH%`

Analytics で必要なポート

次の表に、Analytics から使用できるようにしておく必要のあるポートをまとめます。

表 2-2 Analytics で必要なポート

通信	説明
ポータルから Analytics へのポート 31314	データ収集に使用
ポータルから Analytics へのポート 11944	レポートの表示に使用
Analytics から Image Service へのポート 80	Image Service に格納されているオブジェクトを Analytics レポートに埋め込むために使用
Analytics から Portal DB および Collaboration DB へのポート (使用されるポートは、SQLServer は 1433、Oracle は 1521 などのようにデータベース実装によって異なる)	ポータルまたは Collaboration からのデータの同期に使用
Analytics から API Service マシンへのポート 11905	ポータルからのデータの同期に使用

注意： これらのポート番号は、Analytics のインストール中や設定時に変更できます。ただし、ポート 31314 は変更できません。

クイックスタートの概要

この章では、Analytics のインストールおよびアップグレードに関する高度な手順を簡単に説明します。またこの章は、インストールおよびアップグレードの手順を経験豊富な開発者の方にすばやく理解していただくことを目的としています。

この章は、主に以下の 2 つの節から構成されています。

- **インストール**。この節では、Analytics コンポーネントのインストールと設定、データベースのスクリプトの実行、インストールの開始および検証について説明します。この節の構成は、第 4 章「インストール」の手順にそのまま対応しています。
- **アップグレード**。この節では、Analytics のバージョンを最新バージョンにアップグレードする方法について説明します。この節の構成は、第 5 章「アップグレード」の手順にそのまま対応しています。

インストール

Analytics をインストールする前に、インストールの準備手順が済んでいることを確認してください。詳細については、[2-1 ページの「インストール要件」](#)を参照してください。

Analytics サービスのインストール

このタスクの実行に関する詳細については、[4-2 ページの「Analytics サービスのインストール」](#)を参照してください。

Analytics サービスをインストールするには、次の手順に従います。

1. リモート サーバーのホスト コンピュータにログインします。その際、Windows の場合はローカル管理者として、UNIX および Linux の場合はディレクトリの書き込み権限が付与されたユーザーとしてログインしてください。
2. インストーラの起動に使用するディスク領域にインストーラをコピーします。
3. Analytics インストーラを起動します。
 - **Windows** ホストの場合、インストーラは、**ptanalytics_G5.exe** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6.exe** (Foundation 6.0) です。
 - **UNIX** および **Linux** ホストの場合、インストーラは **ptanalytics_G5** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6** (Foundation 6.0) です。
4. **Analytics サービス** コンポーネントのインストールを選択します。
5. インストーラによって、すべてのファイルがインストール ディレクトリにコピーされます。コピーが完了したら **[Done]** をクリックします。Analytics Configurator が起動します。ただし、この時点では設定を完了しないようにしてください。

Analytics データベースの設定

データベースのプラットフォームに応じて、以下のいずれかの手順を実行します。

- [Microsoft SQL Server データベースの作成と設定](#)
- [Oracle データベースの作成と設定](#)

Microsoft SQL Server データベースの作成と設定

このタスクの実行に関する詳細については、[4-4 ページの「Microsoft SQL Server データベースの作成と設定」](#)を参照してください。

Microsoft SQL Server データベースを作成および設定するには、次の手順に従います。

1. <PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\mssql に格納されているスクリプトを、データベースのホスト コンピュータにコピーします。
2. 次の手順に従って、Analytics データベースのユーザーを作成します。
 - a. Enterprise Manager で新しいログインを作成します。その際のユーザー名としては、Analytics の設定ワークシートに記入したユーザー名を使用してください。設定ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。
 - b. [認証] で [SQL Server 認証] を選択し、対応するパスワードを入力および確認入力します。
3. 以下のプロパティ設定で Analytics データベースを作成します。
 - Analytics の設定ワークシートに記入した名前でデータベースを作成します。設定ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。
 - データベースのサイズを設定します。データベースのデータ量の増加は、システム内に存在する「イベント」の数と密接に関係しています。100 万件のイベントを格納するのに、約 100MB のディスク容量が必要になります。詳細については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics 管理者用ガイド』を参照してください。
4. 次の手順に従って、データベースに対する権限を Analytics データベース ユーザーに割り当てます。
 - a. Analytics データベース ユーザーに、Analytics データベースの **public** および **db_owner** データベース ロールを割り当てます。
 - b. Analytics データベースのプロパティで、Analytics データベース ユーザーにすべての権限を付与します。
5. SQL Server Query Analyzer を起動し、SQL Server 認証を使用して、Analytics データベース ユーザーとして Analytics データベースに接続します。
6. <PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\mssql\ ディレクトリに格納されているデータベース設定スクリプトを、次の順序で実行します (必ず Analytics データベースに対して実行してください)。
 - a. db_creation.sql
 - b. install_seeddata.sql

クイックスタートの概要

7. SQL Service Query Analyzer で、ポータル データベースのユーザーとしてポータル データベースに接続します。
8. <PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\mssql\ に格納されている portal_security_service_install.sql 設定スクリプトを、ポータル データベースに対して実行します。
9. SQL Server Query Analyzer を閉じます。

Oracle データベースの作成と設定

このタスクの実行に関する詳細については、[4-6 ページの「Oracle データベースの作成と設定」](#)を参照してください。

Oracle データベースを作成および設定するには、次の手順に従います。

1. <PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql 内の **oracle** ディレクトリを、Analytics データベースのホスト コンピュータにコピーします。
2. Oracle のシステム ファイルの所有者として Analytics データベースのホスト コンピュータにログオンします。
3. 以下のスクリプトを、**sysdba** として Oracle データベースに対して実行します。
 - a. このインストールで使用する SID の名前を特定します。ポータルのインストール時にデフォルト SID 名を別の名前に変更した場合は、**create_analytics_tablespace.sql** を編集してその変更を反映する必要があります。このスクリプト内に記述されているすべてのデフォルト SID 名を、変更後の SID 名で置換してください。Plumtree Corporate Portal 5.x のデフォルト SID 名は **PLUM** です。Plumtree Foundation 6.x のデフォルト SID 名は **PLUM10** です。

新しい SID を作成する場合は、データベースの文字セットとして AL32UTF8、各国文字セットとして AL16UTF16 を設定します。
 - b. **create_analytics_tablespace.sql** スクリプトを実行します。
 - c. **create_analytics_user.sql** スクリプトを実行します。デフォルト以外のユーザーおよびパスワードが使用されるようにスクリプトを編集する方法については、[4-6 ページの「Oracle データベースの作成と設定」](#)を参照してください。
 - d. Oracle データベースのユーザーおよびパスワードの値を、Analytics の設定ワークシートに記入します。設定ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。

- e. **create_analytics_user.sql** スクリプトを実行します。
- 4. 前の手順で作成した **analytics** ユーザーとして、次の手順を実行します。実行するスクリプトは、手順 1 でコピーした **oracle** ディレクトリに格納されています。
 - a. **create_analytics_schema.sql** スクリプトを実行します。
 - b. **install_analytics_seeddata.sql** スクリプトを実行します。
- 5. AquaLogic Interaction のインストール時に作成した ALI ユーザーとして、ポータルデータベースに対して **portal_security_service_install.sql** スクリプトを実行します。このスクリプトは、手順 1 でコピーした **oracle** ディレクトリに格納されています。
- 6. データベースに付属している分析ツールをポータル データベースに対して実行し、データベースの効率を向上させます。

Analytics の設定

このタスクの実行に関する詳細については、[4-8 ページの「Analytics の設定」](#)を参照してください。

Analytics を設定するには、次の手順に従います。

1. Analytics Configurator を起動します。
 - Windows の場合は、[**スタート | プログラム | BEA | Analytics Configurator**] を選択します。
 - UNIX および Linux の場合は、ウェブ ブラウザで **<http://localhost:11944/configurator/ui/start.jsf>** を開きます。
2. Analytics Configurator ワークシートに記入した値を各設定ページに入力します。このワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。
3. 入力した設定の要約がインストーラ画面に表示されます。画面の内容を確認し、必要に応じて変更を加えます。変更する必要がない場合は [**更新**] をクリックします。

Interaction コンポーネントのインストール

このタスクの実行に関する詳細については、[4-14 ページ](#)の「[Interaction コンポーネントのインストール](#)」を参照してください。

Interaction コンポーネントは、ポータルをホストするすべてのサーバーにインストールします。インストール手順は、Windows、UNIX、および Linux ホストでほぼ共通です。異なる部分については、その都度明記します。

注意： Interaction コンポーネントを、Plumtree Analytics ポータル コンポーネント、Analytics プラグインと呼ぶこともあります。

注意： Interaction コンポーネントは、AquaLogic Interaction をアップグレードするたびに再インストールする必要があります。

Interaction コンポーネントをインストールするには、次の手順に従います。

1. AquaLogic Interaction をインストールしたときと同じユーザーで、ポータルのホスト コンピュータにログインします。
2. Java アプリケーション サーバーで実行している場合は、アプリケーション サーバーをシャットダウンします。
3. Analytics インストーラを起動します。
 - **Windows** ホストの場合、インストーラは、**ptanalytics_G5.exe** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6.exe** (Foundation 6.0) です。
 - **UNIX** および **Linux** ホストの場合、インストーラは **ptanalytics_G5** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6** (Foundation 6.0) です。
4. **Interaction** コンポーネントのインストールを選択します。
5. 次のいずれかの操作を実行します。
 - **Java** で実行している場合は、アプリケーション サーバーを再起動します。その後、ポータル アプリケーション サーバーに **portal.war** または **portal.ear** ファイルを再導入します。
 - **IIS** で実行している場合は、**IIS** を再起動します。

Image Service コンポーネントのインストール

このタスクの実行に関する詳細については、[4-16 ページの「Image Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。

Image Service コンポーネントをインストールするには、次の手順に従います。

1. ローカル管理者として、または AquaLogic Interaction のインストール時に作成した ALI ユーザーとして、Image Service のホスト コンピュータにログインします。
2. インストーラの起動に使用するディスク領域にインストーラをコピーします。
3. Analytics インストーラを起動します。
 - **Windows** ホストの場合、インストーラは、**ptanalytics_G5.exe** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6.exe** (Foundation 6.0) です。
 - **UNIX** および **Linux** ホストの場合、インストーラは **ptanalytics_G5** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6** (Foundation 6.0) です。
4. **Image Service** コンポーネントのインストールを選択します。

Automation Service コンポーネントのインストール

このタスクの実行に関する詳細については、[4-17 ページの「Automation Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。

Automation Service コンポーネントをインストールするには、次の手順に従います。

1. ローカル管理者として、または AquaLogic Interaction のインストール時に作成した ALI ユーザーとして、Automation Service のホスト コンピュータにログインします。
2. インストーラの起動に使用するディスク領域にインストーラをコピーします。
3. Analytics インストーラを起動します。
 - **Windows** ホストの場合、インストーラは、**ptanalytics_G5.exe** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6.exe** (Foundation 6.0) です。
 - **UNIX** および **Linux** ホストの場合、インストーラは **ptanalytics_G5** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6** (Foundation 6.0) です。

クイックスタートの概要

4. **Automation Service** コンポーネントのインストールを選択します。
5. **Analytics Configurator** を起動します。
 - **Windows** の場合は、[**スタート | プログラム | BEA | Analytics Configurator**] を選択します。
 - **UNIX** および **Linux** の場合は、ウェブ ブラウザで <http://localhost:11944/configurator/ui/start.jsf> を開きます。

Analytics サービスおよびポータル サービスの開始

このタスクの実行に関する詳細については、[4-19 ページの「Analytics サービスおよびポータル サービスの開始」](#)を参照してください。

Analytics サービスおよびポータル サービスを開始するには、次のいずれかの操作を実行します。

- Windows の場合は、Windows のコントロール パネルで BEA AquaLogic Interaction Analytics サービスが開始されていることを確認します。次に、BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービスが開始されていることを確認します。
- UNIX および Linux の場合は、`<PT_HOME>/ptanalytics/2.0/bin/analyticsd.sh start` コマンドを使用して、BEA AquaLogic Interaction Analytics サービスが開始されていることを確認します。次に、`<PT_HOME>/ptanalytics/2.0/bin/collectord.sh start` コマンドを使用して、BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービスが開始されていることを確認します。

ポータルへの Analytics の登録

この節では、Analytics Console、リモート サーバー、ウェブ サービス、およびポートレット オブジェクトを、6.x ポータルに登録する方法について説明します。このタスクの実行に関する詳細については、[4-20 ページの「ポータルへの Analytics の登録」](#)を参照してください。

Analytics アプリケーション、リモート サーバー、ウェブ サービス、およびポートレットをポータルに登録するには、移行ユーティリティを使用して移行パッケージ **analytics6.ptc** をインポートします。

5.x ポータルでの移行パッケージのインポートについては、『プラムツリー コーポレートポータル管理者用ガイド』を参照してください。5.x 移行パッケージのファイル名は、**analytics5.ptc** です。

Automation Service への Analytics ジョブの追加

この節では、Automation Service にすべての Analytics ジョブを追加する方法について説明します。Analytics ジョブは、Automation Service に追加することで自動的に実行できます。このタスクの実行に関する詳細については、[4-21 ページの「Automation Service への Analytics ジョブの追加」](#)を参照してください。

Automation Service に Analytics ジョブを追加するには、次の手順に従います。

1. 管理者ポータルにログインします。
2. [管理] で **[Automation Service]** を選択します。
3. Automation Service がオンラインになっていることを確認します。
4. **[Edit Automation Services]** で、Analytics ジョブがインストールされているコンピュータの名前をクリックします。
[フォルダの登録] ウィンドウが表示されます。
5. [**フォルダの追加**] をクリックします。
[ジョブ フォルダの追加] ウィンドウが表示されます。
6. **[Analytics]** フォルダを展開します。
7. **[Analytics Jobs]** フォルダを展開します。
8. **[OK]** をクリックして [フォルダの登録] ウィンドウを閉じます。
9. **[終了]** をクリックします。

Automation Service によって Analytics ジョブが実行されます。Analytics ジョブを Automation Service に追加したときに、他の Automation Service ジョブがキューに入っ

クイックスタートの概要

ているか実行中である場合、追加した Analytics ジョブはそれらのジョブが完了した後
に実行されます。

10. しばらく時間を置いてから、追加した Analytics ジョブが正常に完了したかどうかを確認
します。正常に完了していない Analytics ジョブがあった場合は、それらのジョブが
再実行されるようにスケジュール設定します。

アップグレード

アップグレード パス

次の表に、Analytics でサポートされているデータベース アップグレード パスをまとめま
す。

表 3-1 アップグレード パス

アップグレード パス	アップグレードに関する資料
1.2 から 2.0	この章の手順に従ってください。
1.1 から 2.0	この章の手順に従ってください。

Analytics のアップグレード

この節では、以下のトピックについて説明します。

- [Analytics バージョン 1.2 から 2.0 へのアップグレード](#)
- [Analytics バージョン 1.1 から 2.0 へのアップグレード](#)

Analytics バージョン 1.2 から 2.0 へのアップグレード

この節では、Analytics 1.2 から Analytics 2.0 にアップグレードする方法について説明しま
す。

Analytics 1.2 から Analytics 2.0 にアップグレードするには、次の手順に従います。

1. Plumtree Analytics サービスが実行中でないことを確認します。
2. Plumtree Analytics Collector サービスが実行中でないことを確認します。
3. PT_HOME\common\container\tomcat\5.0.28\work ディレクトリ内の **Analytics** フォルダを削除します。
4. Analytics サービスをインストールします。詳細については、[4-2 ページの「Analytics サービスのインストール」](#)を参照してください。インストールディレクトリを指定する画面が表示されます。既存のソフトウェアと同じ場所にインストールする場合は、デフォルトのインストールディレクトリをそのまま使用します。

注意： スクリプト ファイル **sync.bat** は削除されます。**AnalyticsRunJobs.bat** ファイルが追加され、Automation Service ジョブとして自動的に実行されるようにスケジュール設定されます。
5. **upgrade_1.x_to_2.0.sql** スクリプト
(<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\<database>\upgrade_1.x_to_2.0.sql) を実行して Analytics データベースをアップグレードします。
6. portal_security_service_install.sql 設定スクリプトを、ポータルデータベースに対して実行します。このスクリプトは、<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\mssql\ に格納されています。
7. Analytics Configurator を起動して Analytics を再設定します。詳細については、[4-8 ページの「Analytics の設定」](#)を参照してください。
8. 次のスクリプトを実行して Analytics データベースをパーティション化します。
 - AnalyticsPartition.bat (Windows):
 <PT_HOME>\ptanalytics\2.0\bin\AnalyticsPartition.bat
 - AnalyticsPartition.sh (UNIX):
 <PT_HOME>\ptanalytics\2.0\bin\AnalyticsPartition.sh
9. **(Oracle のみ)** データベースに付属している分析ツールをポータルデータベースと Analytics データベースの両方に対して実行し、データベースの効率を向上させます。
10. Interaction コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-14 ページの「Interaction コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
11. Image Service コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-16 ページの「Image Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。

クイックスタートの概要

12. Analytics サービスを一旦停止してから再開します。詳細については、[4-19 ページの「Analytics サービスおよびポータル サービスの開始」](#)を参照してください。
13. 移行パッケージをインポートして、Analytics アプリケーション、リモート サーバー、ウェブ サービス、およびポートレットをポータルに登録します。この操作を 6.x ポータルで実行する場合は、[4-20 ページの「ポータルへの Analytics の登録」](#)を参照してください。5.x ポータルでの移行パッケージのインポートについては、『プラムツリー コーポレート ポータル管理者用ガイド』を参照してください。
14. Automation Service コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-17 ページの「Automation Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
15. Automation Service に Analytics ジョブを追加します。詳細については、[4-21 ページの「Automation Service への Analytics ジョブの追加」](#)を参照してください。

Analytics バージョン 1.1 から 2.0 へのアップグレード

この節では、Analytics 1.1 から Analytics 2.0 にアップグレードする方法について説明します。

Analytics 1.1 から Analytics 2.0 にアップグレードするには、次の手順に従います。

1. Plumtree Analytics サービスが実行中でないことを確認します。
2. Plumtree Analytics Collector サービスが実行中でないことを確認します。
3. PT_HOME\common\container\tomcat\5.0.28\work ディレクトリ内の **Analytics** フォルダを削除します。
4. Analytics サービスをインストールします。詳細については、[4-2 ページの「Analytics サービスのインストール」](#)を参照してください。インストール ディレクトリを指定する画面が表示されます。既存のソフトウェアと同じ場所にインストールする場合は、デフォルトのインストール ディレクトリをそのまま使用します。

注意： スクリプト ファイル **sync.bat** は削除されます。**AnalyticsRunJobs.bat** ファイルが追加され、Automation Service ジョブとして自動的に実行されるようにスケジュール設定されます。

5. **upgrade_1.x_to_2.0.sql** スクリプト
(<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\<database>\upgrade_1.x_to_2.0.sql) を実行して Analytics データベースをアップグレードします。

6. portal_security_service_install.sql 設定スクリプトを、ポータル データベースに対して実行します。このスクリプトは、<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\mssql\ に格納されています。
7. Analytics Configurator を起動して Analytics を再設定します。詳細については、[4-8 ページの「Analytics の設定」](#)を参照してください。
注意： 1.1 から 2.0 へのアップグレード中に Analytics Configurator を起動する場合は、すべてのデータベースで API サービス URL およびパスワードを再入力する必要があります。
8. 次のスクリプトを実行して Analytics データベースをパーティション化します。
 - AnalyticsPartition.bat (Windows):
<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\bin\AnalyticsPartition.bat
 - AnalyticsPartition.sh (UNIX/Linux):
<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\bin\AnalyticsPartition.sh
9. **(Oracle のみ)** データベースに付属している分析ツールをポータル データベースと Analytics データベースの両方に対して実行し、データベースの効率を向上させます。
10. Interaction コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-14 ページの「Interaction コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
注意： Analytics 2.0 へのアップグレードでは、ポータル サーバーから Analytics Service サーバーへのイベント メトリクスの送信に使用するポートが 31314 に変更されます。ポータル サーバーと Analytics Service サーバーの間の 31314 ポートが開かれていることを確認してください。Analytics で使用するその他のポートの一覧については、[2-4 ページの「Analytics で必要なポート」](#)を参照してください。
11. Image Service コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-16 ページの「Image Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
12. Analytics サービスを一旦停止してから再開します。詳細については、[4-19 ページの「Analytics サービスおよびポータル サービスの開始」](#)を参照してください。
13. 移行パッケージをインポートして、Analytics アプリケーション、リモート サーバー、ウェブ サービス、およびポートレットをポータルに登録します。この操作を 6.x ポータルで実行する場合は、[4-20 ページの「ポータルへの Analytics の登録」](#)を参照してください。5.x ポータルでの移行パッケージのインポートについては、『プラムツリー コーポレート ポータル管理者用ガイド』を参照してください。

クイックスタートの概要

14. Automation Service コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-17 ページの「Automation Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
15. Automation Service に Analytics ジョブを追加します。詳細については、[4-21 ページの「Automation Service への Analytics ジョブの追加」](#)を参照してください。

インストール

この章では、Analytics サービスおよびコンポーネントをインストールするための以下の手順について説明します。

1. インストールの準備手順が済んでいること確認します。詳細については、[2-1 ページの「インストール要件」](#)を参照してください。
2. リモート サーバーのホスト コンピュータに Analytics サービスをインストールします。詳細については、[4-2 ページの「Analytics サービスのインストール」](#)を参照してください。
3. Analytics データベースを設定します。詳細については、[4-4 ページの「Analytics データベースの設定」](#)を参照してください。
4. Analytics を設定します。詳細については、[4-8 ページの「Analytics の設定」](#)を参照してください。
5. インストール パッケージの Interaction コンポーネントをすべてのポータル サーバーにインストールします。詳細については、[4-14 ページの「Interaction コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
6. インストール パッケージの Image Service コンポーネントを Image Service ホストにインストールします。詳細については、[4-16 ページの「Image Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
7. インストール パッケージの Automation Service コンポーネントを Automation Service ホストにインストールし、Analytics Configurator の各ページで Automation Service コンポーネントの設定を行います。詳細については、[4-17 ページの「Automation Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。

インストール

8. Analytics サービスとポータル サービスを開始します。詳細については、[4-19 ページの「Analytics サービスおよびポータル サービスの開始」](#)を参照してください。
9. Analytics アプリケーション、リモート サーバー、ウェブ サービス、およびポートレットをポータルに登録します。詳細については、[4-20 ページの「ポータルへの Analytics の登録」](#)を参照してください。
10. Automation Service に Analytics ジョブを追加します。詳細については、[4-21 ページの「Automation Service への Analytics ジョブの追加」](#)を参照してください。

Analytics サービスのインストール

この節では、コア アプリケーション (Analytics サービス、Analytics Collector サービスを含む) をインストールする方法について説明します。インストール手順は、Windows、UNIX、および Linux ホストでほぼ共通です。異なる部分については、その都度明記します。Analytics サービスをインストールするには、次の手順に従います。

1. リモート サーバーのホスト コンピュータにログインします。その際、Windows の場合はローカル管理者として、UNIX および Linux の場合はディレクトリの書き込み権限が付与されたユーザーでログインしてください。
2. インストーラの起動に使用するディスク領域にインストーラをコピーします。インストーラ ファイルは次のいずれかです。
 - Windows: **ptanalytics_G5.exe** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6.exe** (Foundation 6.0)
 - UNIX: **ptanalytics_G5** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6** (Foundation 6.0)
3. 不要なアプリケーションをすべて閉じます。
4. インストーラ ファイルを実行します。

5. Analytics サービスのインストール ワークシートに記入した設定に従って、次の表に示すインストール ウィザードの各ページに情報を入力します。インストール ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。

表 4-1 インストール ウィザードのページ - Analytics サービス

ウィザードのページ	説明
[License Agreement]	ライセンス契約を確認し、承諾する必要があります。
[Choose Components]	[Analytics Services] を選択します。
[インストール ディレクトリ]	デフォルトのディレクトリは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • C:\bea\alui (Windows) • /opt/bea/alui (UNIX および Linux)
[Application Port]	[http] または [https] プロトコルを選択します。デフォルト ポートは 11944 です。このポートは、ポータルが Analytics でポートレット UI を検索するために使用します。

6. ウィザードの最後のページで、[**Install**] をクリックします。

注意： インストーラによって、すべてのファイルがインストール ディレクトリにコピーされます。コピーが完了したら [**Done**] をクリックします。Analytics Configurator が起動します。ただし、この時点では設定を完了しないようにしてください。先に、[4-4 ページの「Analytics データベースの設定」](#)の説明に従って Analytics データベースを設定します。なお、UNIX および Linux システムでは、デフォルト ブラウザが指定されていないと Analytics Configurator が起動しません。

注意： このインストールでは、インストール ディレクトリ (例えば **C:\bea\alui**) にログ ファイルが生成されます。インストールの間に問題が発生した場合は、このログ ファイルのエラー メッセージを確認してください。

警告： 設定作業を始める前に、Analytics を実行するサーバーとポータルを実行するサーバーのシステム時刻を同期させておくことをお勧めします。システム時刻が揃っていないと、イベントや同期ジョブが正しく実行されないことがあります。

Analytics データベースの設定

この節では、Analytics データベースの設定手順について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [Microsoft SQL Server データベースの作成と設定](#)
- [Oracle データベースの作成と設定](#)

Microsoft SQL Server データベースの作成と設定

Microsoft SQL Server 上に Analytics データベースを作成するには、次の手順に従います。

1. <PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\mssql に格納されているスクリプトを、データベースのホスト コンピュータにコピーします。
2. 次の手順で、Analytics データベースのユーザーを作成します。
 - a. [**スタート | プログラム | Microsoft SQL Server | Enterprise Manager**] を選択して Enterprise Manager を起動します。
 - b. ナビゲーション枠でオブジェクトを展開し、[**セキュリティ**] フォルダのサブフォルダを表示します。
 - c. [**ログイン**] アイコンを右クリックし、[**新規ログイン**] をクリックします。
 - d. [**SQL Server ログインのプロパティ**] ダイアログ ボックスに、Analytics の設定ワークシートに記入したユーザー名を入力します。設定ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。
 - e. [**認証**] エリアで、[**SQL Server 認証**] を選択して、対応するパスワードを入力します。
 - f. パスワードの確認を行ってプロセスを完了させます。
3. 以下のプロパティ設定で Analytics データベースを作成します。

Analytics データベースの設定

- Analytics の設定ワークシートに記入した名前でデータベースを作成します。設定ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。
 - データベースのサイズを設定します。データベースのデータ量の増加は、システム内に存在する「イベント」の数と密接に関係しています。イベントには、ページビュー、ポートレット ビュー、ユーザー ログイン、ディスカッション投稿などがあります。100 万件のイベントを格納するのに、約 100MB のディスク容量が必要になります。例えば、ポータルで 1 日に受信するイベントが 100 万件だとすると、1 年間で 36.5GB のディスク容量が必要になる計算です。
4. 次の手順に従って、データベースに対する権限を Analytics データベース ユーザーに割り当てます。
- a. [**スタート | プログラム | Microsoft SQL Server | Enterprise Manager**] を選択して Enterprise Manager を起動します。
 - b. ナビゲーション枠でオブジェクトを展開し、[**セキュリティ**] フォルダを選択します。
 - c. オブジェクト枠で、Analytics ユーザーを右クリックして [**プロパティ**] を選択します。
 - d. [**一般**] タブの [Defaults] セクションで Analytics データベースを選択します。
 - e. [**データベース アクセス**] タブをクリックします。
 - f. [**このログインがアクセスできるデータベースを指定します**] ボックスで、Analytics データベースを選択します。
 - g. [**データベース ロール (データベース名)**] で、[**public**] と [**db_owner**] を選択します。
 - h. [**OK**] をクリックします。
 - i. ナビゲーション枠で、オブジェクトを展開して Analytics データベースを表示し、Analytics データベースを右クリックして [**プロパティ**] を選択します。
 - j. [**権限**] タブをクリックして、Analytics データベース ユーザーにすべての権限を付与します。
 - k. [**OK**] をクリックします。
5. SQL Server Query Analyzer を起動し、SQL Server 認証を使用して、Analytics データベース ユーザーとして Analytics データベースに接続します。

インストール

6. <PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\mssql\ フォルダに格納されているデータベース設定スクリプトを、次の順序で実行します (必ず Analytics データベースに対して実行してください)。
 - a. db_creation.sql
 - b. install_seeddata.sqlスクリプトを実行するには、[**ファイル | 開く**] を選択して [**クエリ ファイルを開く**] ダイアログ ボックスを表示します。次に、データベースのスクリプト ファイルを参照して選択し、[**クエリ | 実行**] をクリックします。
7. SQL Service Query Analyzer で、ポータル データベースのユーザーとしてポータル データベースに接続します。
8. <PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\mssql\ に格納されている portal_security_service_install.sql 設定スクリプトを、ポータル データベースに対して実行します。
9. SQL Server Query Analyzer を閉じます。

以上の手順が完了したら、[4-8 ページの「Analytics の設定」](#)の説明に従って Analytics アプリケーションを設定します。

Oracle データベースの作成と設定

Analytics Oracle データベースを作成および設定するには、次の手順に従います。

1. <PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql 内の **oracle** ディレクトリを、Analytics データベースのホスト コンピュータにコピーします。このフォルダには、Analytics Oracle データベースの設定に使用するスクリプトが格納されています。
2. Oracle のシステム ファイルの所有者として Analytics データベースのホスト コンピュータにログオンします。
3. Oracle データベースで、**system** ユーザーとして次の手順を実行します。
 - a. このインストールで使用する SID の名前を特定します。ポータルのインストール時にデフォルト SID 名を別の名前に変更した場合は、**create_analytics_tablespaces.sql** を編集してその変更を反映する必要があります。

このスクリプト内に記述されているすべてのデフォルト SID 名を、変更後の SID 名で置換してください。Plumtree Corporate Portal 5.x のデフォルト SID 名は **PLUM** です。Plumtree Foundation 6.x のデフォルト SID 名は **PLUM10** です。

新しい SID を作成する場合は、データベースの文字セットとして AL32UTF8、各国文字セットとして AL16UTF16 を設定します。

- b. お使いのプラットフォームの **create_analytics_tablespace.sql** スクリプトを実行します。このスクリプトは、手順 1 でコピーした **oracle** ディレクトリ内のプラットフォーム別サブディレクトリに格納されています。
 - c. **create_analytics_user.sql** スクリプトを実行します。

注意： Oracle データベースのユーザーおよびパスワードを、スクリプトに指定されているデフォルト値で作成したくない場合は、スクリプトを編集して変更します。デフォルト ユーザーは **analyticsdbuser**、デフォルト パスワードは **plumtree** です。**create_analytics_user.sql** スクリプトは、手順 1 でコピーした **oracle** ディレクトリに格納されています。
 - d. Oracle データベースのユーザーおよびパスワードの値を、Analytics の設定ワークシートに記入します。設定ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。なお、これらの値は、「Analytics の設定」で説明する手順で Analytics Configurator に設定する値です。
 - e. **create_analytics_user.sql** スクリプトを実行します。
4. 前の手順で作成した **analytics** ユーザーとして、次の手順を実行します。
 - a. **create_analytics_schema.sql** スクリプトを実行します。このスクリプトを実行すると、Analytics の実行に必要なすべてのテーブルおよびインデックスが作成されます。**create_analytics_schema.sql** スクリプトは、手順 1 でコピーした **oracle** ディレクトリに格納されています。
 - b. **install_analytics_seeddata.sql** スクリプトを実行します。このスクリプトを実行すると、Analytics 製品の実行に必要なすべての初期データが追加されます。**install_analytics_seeddata.sql** スクリプトは、手順 1 でコピーした **oracle** ディレクトリに格納されています。
 5. AquaLogic Interaction のインストール時に作成した ALI ユーザーとして、ポータルスキーマに対して **portal_security_service_install.sql** スクリプトを実行します。このスクリプトを実行すると、Analytics でセキュリティサービスを使用するために必要なすべてのテーブルおよび初期データが追加されます。**install_analytics_seeddata.sql** スクリプトは、手順 1 でコピーした **oracle** ディレクトリに格納されています。

インストール

6. データベースに付属している分析ツールをポータル データベースに対して実行し、データベースの効率を向上させます。

Analytics の設定

この節では、Analytics の設定方法について説明します。

注意： 表示される一連のコンポーネント設定ページは、これまでの手順でインストールしたコンポーネントによって異なります。

Analytics を設定するには、次の手順に従います。

1. インストールの完了時に起動したブラウザ ウィンドウに戻ります。ブラウザ ウィンドウを閉じてしまった場合は、Analytics Configurator を起動します。Windows の場合は、[スタート | プログラム | BEA | **Analytics Configurator**] を選択します。UNIX および Linux の場合は、ウェブ ブラウザで <http://localhost:11944/configurator/ui/start.jsf> を開きます。

警告： Windows 2003 では、IE のセキュリティ設定が原因で、Analytics Configurator の操作を完了できない場合があります。その場合は、Analytics ホスト コンピュータが完全に信頼されるように IE の設定を変更してください。

2. 設定作業を開始するには、[Continue] をクリックします。Analytics Configurator ワークシートに記入した値を、以下に示す各設定ページに入力します。設定ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。

表 4-2 Analytics Configurator のページ

設定ページ	設定	備考
[Configure Analytics Database Information]	[Analytics DB]	
	[Analytics DB Server Name]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Analytics DB Port]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Analytics DB Name]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Analytics DB JDBC URL]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されます。
	[Analytics DB Username]	
	[Analytics DB Password]	
	[Use JDBC URL]	JDBC URL は、標準の設定方法がお使いの環境に適合しない場合 (例えば、Oracle RAC や SQL Server クラスタを使用している場合) にのみ使用することをお勧めします。

表 4-2 Analytics Configurator のページ

設定ページ	設定	備考
[API Service Information]	[API Service URL]	<p>ポータルの API Service URL は、次のいずれかの方法で調べることができます。</p> <ul style="list-style-type: none">Plumtree Corporate Portal 5.0 では、[ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで [ポータル サーバーの設定] を選択すると、ポータル管理内の API Service URL が見つかります。次に [ポータル URL マネージャー] をクリックすると、[SOAP Server URL] フィールドに API Service URL が表示されます。Plumtree Foundation 6.0 では、[ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで [ポータル設定] を選択すると、ポータル管理内の API Service URL が見つかります。次に [ポータル URL マネージャー] をクリックすると、[SOAP Server URL] フィールドに API Service URL が表示されます。
	[Portal Username]	<p>ここに指定するユーザーは、すべてのコミュニティ、ポートレット、ユーザー、ドキュメント、および Collaboration プロジェクトの選択権限が付与されたポータル アカウントでなければなりません。管理者グループに属すユーザーを指定することをお勧めします。</p>
	[Portal Password]	

表 4-2 Analytics Configurator のページ

設定ページ	設定	備考
[Configure Portal Database Information]	[Portal DB]	
	[Portal DB Server Name]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Portal DB Port]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Portal DB Name]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Portal DB JDBC URL]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されます。
	[Portal DB Username]	[Portal DB Username] には、ポータル データベースの作成に使用したユーザーを指定する必要があります。
	[Portal DB Password]	
	[Portal Version 5.0.4J]	
	[Use JDBC URL]	JDBC URL は、標準の設定方法がお使いの環境に適合しない場合 (例えば、Oracle RAC や SQL Server クラスタを使用している場合) にのみ使用することをお勧めします。

表 4-2 Analytics Configurator のページ

設定ページ	設定	備考
[Configure Collaboration Database Information] (オプション)	[BEA AquaLogic Interaction Collaboration is installed in my portal environment.]	このオプションは、ポータル環境に Collaboration がインストールされている場合に選択します。
	[Collab DB]	
	[Collab DB Server Name]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Collab DB Port]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Collab DB Name]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Collab DB JDBC URL]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されます。
	[Collab DB Username]	
	[Collab DB Password]	
	[Use JDBC URL]	JDBC URL は、標準の設定方法がお使いの環境に適合しない場合 (例えば、Oracle RAC や SQL Server クラスタを使用している場合) にのみ使用することをお勧めします。

表 4-2 Analytics Configurator のページ

設定ページ	設定	備考
[Configure Publisher Database Information] (オプション)	[BEA AquaLogic Interaction Publisher is installed in my portal environment.]	このオプションは、ポータル環境に Collaboration がインストールされている場合に選択します。
	[Publisher DB]	
	[Publisher DB Server Name]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Publisher DB Port]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Publisher DB Name]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されません。
	[Publisher DB JDBC URL]	[Use JDBC URL] を選択した場合は表示されます。
	[Publisher DB Username]	
	[Publisher DB Password]	
	[Use JDBC URL]	JDBC URL は、標準の設定方法がお使いの環境に適合しない場合 (例えば、Oracle RAC や SQL Server クラスタを使用している場合) にのみ使用することをお勧めします。

3. 入力した設定の要約がインストーラ画面に表示されます。画面の内容を確認し、必要に応じて変更を加えます。
4. 最後のページで **[終了]** をクリックします。

注意： 入力した設定情報に基づいて接続性が検証され、正常に接続できたかどうかを示すログがブラウザ ウィンドウに表示されます。エラーが表示された場合は、エラー メッセージの指示に従うか、[A-1 ページの「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

Interaction コンポーネントのインストール

この節では、Interaction および Automation Service コンポーネントのインストール方法について説明します。

インストール手順は、Windows、UNIX、および Linux ホストでほぼ共通です。異なる部分については、その都度明記します。

注意： Interaction コンポーネントを、Plumtree Analytics ポータル コンポーネント、Analytics プラグインと呼ぶこともあります。

注意： Interaction コンポーネントは、AquaLogic Interaction をアップグレードするたびに再インストールする必要があります。

Interaction コンポーネントをインストールするには、次の手順に従います。

1. AquaLogic Interaction をインストールしたときと同じユーザーで、ポータルのホスト コンピュータにログインします。
2. Java で実行している場合は、アプリケーション サーバーをシャットダウンします。
3. インストーラの起動に使用するディスク領域にインストーラをコピーします。インストーラ ファイルは次のいずれかです。
 - Windows: **ptanalytics_G5.exe** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6.exe** (Foundation 6.0)
 - UNIX: **ptanalytics_G5** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6** (Foundation 6.0)
4. 不要なアプリケーションやウィンドウをすべて閉じます。
5. 次のいずれかの操作を実行します。
 - Windows にインストールする場合は、インストーラ ファイルをダブルクリックします。
 - UNIX にインストールする場合は、インストーラ ファイルを実行します。

6. Interaction コンポーネントのインストール ワークシートに記入した設定に従って、次の表に示すインストール ウィザードの各ページに情報を入力します。インストール ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。

表 4-3 インストール ウィザードのページ - Interaction コンポーネント

ウィザードのページ	説明
[License Agreement]	ライセンス契約を確認し、承諾する必要があります。
[Choose Components]	[Interaction component] を選択します。
[Portal Installation Directory]	ポータル サーバーのインストール ディレクトリ (例えば C:\Program Files\Plumtree\ptportal\6.0) を参照して選択します。 注意： Interaction コンポーネントと Automation Service コンポーネントは、同じディレクトリにインストールする必要があります。そのため、両コンポーネントのインストールには同じウィザード ページを使用します。
[Analytics Services - Fully Qualified Domain Name]	Analytics サービスをホストするマシン (AquaLogic Interaction をインストールしたホスト コンピュータ ではありません) の完全修飾ドメイン名を指定します。

7. ウィザードの最後のページで、[**Install**] をクリックします。
8. 次のいずれかの操作を実行します。
- **Java** で実行している場合は、アプリケーション サーバーを再起動します。その後、ポータル アプリケーション サーバーに **portal.war** または **portal.ear** ファイルを再導入します。
 - **IIS** で実行している場合は、アプリケーション サーバーを再起動します。手順については、お使いのアプリケーション サーバーの資料を参照してください。

注意： このインストールでは、インストール ディレクトリ (例えば **C:\bea\alui**) にログ ファイルが生成されます。インストールの間に問題が発生した場合は、このログ ファイルのエラー メッセージを確認してください。

Image Service コンポーネントのインストール

この節では、Image Service コンポーネントのインストール方法について説明します。インストール手順は、Windows、UNIX、および Linux ホストでほぼ共通です。異なる部分については、その都度明記します。Image Service コンポーネントをインストールするには、次の手順に従います。

1. ローカル管理者として、または AquaLogic Interaction のインストール時に作成した ALI ユーザーとして、Image Service のホスト コンピュータにログインします。
2. インストーラの起動に使用するディスク領域にインストーラをコピーします。インストーラ ファイルは次のいずれかです。
 - Windows: **ptanalytics_G5.exe** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6.exe** (Foundation 6.0)
 - UNIX: **ptanalytics_G5** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6** (Foundation 6.0)
3. 不要なアプリケーションやウィンドウをすべて閉じます。
4. インストーラ ファイルをダブルクリックします。
5. Image Service コンポーネントのインストール ワークシートに記入した設定に従って、次の表に示すインストール ウィザードの各ページに情報を入力します。インストール ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。

表 4-4 インストール ウィザードのページ - Image Service コンポーネント

ウィザードのページ	説明
[License Agreement]	ライセンス契約を確認し、承諾する必要があります。
[Choose Components]	[Image Service component] を選択します。
[インストール ディレクトリ]	Image Service ファイルのインストール ディレクトリ (例えば C:\Program Files\Plumtree\ptimages) を参照して選択します。

6. ウィザードの最後のページで、[Install] をクリックします。

注意： このインストールでは、インストールディレクトリ（例えば **C:\bea\alui**）にログファイルが生成されます。インストールの間に問題が発生した場合は、このログファイルのエラーメッセージを確認してください。

Automation Service コンポーネントのインストール

この節では、Automation Service コンポーネントのインストール方法について説明します。インストール手順は、Windows、UNIX、および Linux ホストでほぼ共通です。異なる部分については、その都度明記します。

Automation Service コンポーネントをインストールするには、次の手順に従います。

1. ローカル管理者として、または AquaLogic Interaction のインストール時に作成した ALI ユーザーとして、Automation Service のホスト コンピュータにログインします。
2. インストーラの起動に使用するディスク領域にインストーラをコピーします。インストーラ ファイルは次のいずれかです。
 - Windows: **ptanalytics_G5.exe** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6.exe** (Foundation 6.0)
 - UNIX: **ptanalytics_G5** (Corporate Portal 5.0) または **ptanalytics_G6** (Foundation 6.0)
3. 不要なアプリケーションやウィンドウをすべて閉じます。
4. インストーラ ファイルをダブルクリックします。
5. Automation Service コンポーネントのインストール ワークシートに記入した設定に従って、次の表に示すインストール ウィザードの各ページに情報を入力します。インストール ワークシートは、Analytics インストールおよび設定ワークシート ドキュメントに含まれています。

表 4-5 インストール ウィザードのページ - Automation Service コンポーネント

ウィザードのページ	説明
[License Agreement]	ライセンス契約を確認し、承諾する必要があります。

インストール

表 4-5 インストール ウィザードのページ - Automation Service コンポーネント

ウィザードのページ	説明
[Choose Components]	[Automation Service component] を選択します。
[Portal Installation Directory]	ポータル サーバーのインストールディレクトリ (例えば C:\Program Files\Plumtree\ptportal\6.0) を参照して選択します。 注意： Automation Service コンポーネントと Interaction コンポーネントは、同じディレクトリにインストールする必要があります。そのため、両コンポーネントのインストールには同じウィザード ページを使用します。

6. ウィザードの最後のページで、[Install] をクリックします。
- 注意：** このインストールでは、インストールディレクトリ (例えば **C:\bea\alui**) にログファイルが生成されます。インストールの間に問題が発生した場合は、このログファイルのエラーメッセージを確認してください。
7. インストールが完了すると、Automation Service をインストールしたマシンの **Analytics Configurator** が起動します。[4-8 ページの「Analytics の設定」](#)の説明に従って、表示された設定ページでの作業を完了します。

Analytics サービスおよびポータル サービスの開始

この節では、Analytics サービスおよびポータル サービスの開始について説明します。オペレーティング システムに応じた手順を実行してください。

Windows での Analytics サービスおよびポータル サービスの開始

Analytics サービスおよびすべての Analytics コンポーネントのインストールが完了したら、以下の操作を実行します。

- BEA AquaLogic Interaction Analytics サービスが開始されていることを確認します。そのためには、Windows のコントロール パネルで [**管理ツール** | **サービス**] を選択します。Analytics サービスが開始されていない場合は、サービスを右クリックして [**開始**] を選択します。
- BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービスが開始されていることを確認します。そのためには、Windows のコントロール パネルで [**管理ツール** | **サービス**] を選択します。Analytics Collector サービスが開始されていない場合は、サービスを右クリックして [**開始**] を選択します。

UNIX および Linux での Analytics サービスおよびポータル サービスの開始

Analytics サービスおよびすべての Analytics コンポーネントのインストールが完了したら、以下の操作を実行します。

- BEA AquaLogic Interaction Analytics サービスが開始されていることを確認します。
<PT_HOME>/ptanalytics/2.0/bin/analyticsd.sh start

インストール

- BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービスが開始されていることを確認します。
<PT_HOME>/ptanalytics/2.0/bin/collectord.sh start

ポータルへの Analytics の登録

この節では、Analytics Console、リモート サーバー、ウェブ サービス、およびポートレット オブジェクトを、6.x ポータルに登録する方法について説明します。

5.x ポータルでの移行パッケージのインポートについては、『プラムツリー コーポレート ポータル管理者用ガイド』を参照してください。5.x 移行パッケージのファイル名は、**analytics5.pte** です。

Analytics オブジェクトをポータルに登録するには、次の手順に従います。

1. 管理者ポータルにログインします。
2. **[管理]** をクリックします。
3. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストから **[Migration | Import]** を選択します。
4. 移行パッケージの格納場所を参照して選択します。インストール時にデフォルトのままにした場合、Analytics ホストでの格納場所は
<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\serverpackages\analytics6.pte です。
5. **[Load Package]** をクリックします。
6. 次のいずれかの操作を実行します。
 - 移行パッケージを初めてインポートする場合は、**[Import Settings]** での選択肢をデフォルトのままにしておきます。デフォルトで選択されているのは、**[Import ACLs]** と **[Remember Dependency Settings]** です。
 - 以前に移行パッケージをインポートしており、もう一度インポートしたい場合は、選択肢をデフォルトのままにした上で **[Overwrite Remote Servers]** チェック ボックスをチェックします。
7. 移行エディタの左側にある **[Portal Resources]** をクリックします。
8. インポートするオブジェクトを選択します。

9. [終了] をクリックします。

Automation Service への Analytics ジョブの追加

この節では、Automation Service にすべての Analytics ジョブを追加する方法について説明します。Analytics ジョブは、Automation Service に追加することで自動的に実行できます。Automation Service に Analytics ジョブを追加するには、次の手順に従います。

1. 管理者ポータルにログインします。
2. [管理] をクリックします。
3. [ユーティリティの選択] ドロップダウンから [Automation Service] を選択します。
Automation Service マネージャーが表示されます。
4. Automation Service がオンラインになっていることを確認します。
5. [Edit Automation Services] で、Analytics ジョブがインストールされているコンピュータの名前をクリックします。
[フォルダの登録] ウィンドウが表示されます。
6. [フォルダの追加] をクリックします。
[ジョブ フォルダの追加] ウィンドウが表示されます。
7. [Analytics] フォルダを展開します。
8. [Analytics Jobs] フォルダを選択します。
9. [OK] をクリックして [フォルダの登録] ウィンドウを閉じます。
10. [終了] をクリックします。

Automation Service によって Analytics ジョブが実行されます。Analytics ジョブを Automation Service に追加したときに、他の Automation Service ジョブがキューに入っているか実行中である場合、追加した Analytics ジョブはそれらのジョブが完了した後に実行されます。

インストール

11. しばらく時間を置いてから、追加した **Analytics** ジョブが正常に完了したかどうかを確認します。正常に完了していない **Analytics** ジョブがあった場合は、それらのジョブが再実行されるようにスケジュール設定します。

アップグレード

この章では、Analytics のアップグレード方法について説明します。この章には以下の節が含まれています。

- [アップグレード パス](#)
- [Analytics バージョン 1.2 から Analytics 2.0 へのアップグレード](#)
- [Analytics バージョン 1.1 から 2.0 へのアップグレード](#)

アップグレード パス

次の表に、Analytics でサポートされているデータベース アップグレード パスをまとめます。

表 5-1 アップグレード パス

アップグレード パス	アップグレードに関する資料
1.2 から 2.0	この章の手順に従ってください。
1.1 から 2.0	この章の手順に従ってください。

この節では、以下のトピックについて説明します。

アップグレード

- [Analytics バージョン 1.2 から Analytics 2.0 へのアップグレード](#)
- [Analytics バージョン 1.1 から 2.0 へのアップグレード](#)

Analytics バージョン 1.2 から Analytics 2.0 へのアップグレード

この節では、Analytics 1.2 から Analytics 2.0 にアップグレードする方法について説明します。

Analytics 1.2 から Analytics 2.0 にアップグレードするには、次の手順に従います。

1. Plumtree Analytics サービスが実行中でないことを確認します。
 - Windows の場合 : Windows のコントロール パネルで [管理ツール | サービス] を選択します。Analytics サービスが実行中である場合は、サービスを右クリックして [停止] を選択します。
 - UNIX の場合 : `<PT_HOME>/ptanalytics/1.2/bin/analyticsd.sh stop` コマンドを使用します。
2. Plumtree Analytics Collector サービスが実行中でないことを確認します。
 - Windows の場合 : Windows のコントロール パネルで [管理ツール | サービス] を選択します。Analytics Collector サービスが実行中である場合は、サービスを右クリックして [停止] を選択します。
 - UNIX の場合 : `<PT_HOME>/ptanalytics/1.2/bin/collectord.sh stop` コマンドを使用します。
3. `PT_HOME\common\container\tomcat\5.0.28\work` ディレクトリ内の **Analytics** フォルダを削除します。
4. Analytics サービスをインストールします。詳細については、[4-2 ページの「Analytics サービスのインストール」](#)を参照してください。インストール ディレクトリを指定する画面が表示されます。既存のソフトウェアと同じ場所にインストールする場合は、デフォルトのインストール ディレクトリをそのまま使用します。

Analytics バージョン 1.2 から Analytics 2.0 へのアップグレード

注意： スクリプト ファイル **sync.bat** は削除されます。**AnalyticsRunJobs.bat** ファイルが追加され、Automation Service ジョブとして自動的に実行されるようにスケジュール設定されます。

5. 次に示す **upgrade_1.x_to_2.0.sql** スクリプトを実行して Analytics データベースをアップグレードします。
`<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\<database>\upgrade_1.x_to_2.0.sql`
6. **portal_security_service_install.sql** 設定スクリプトを、ポータル データベースに対して実行します。このスクリプトは、`<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\mssql\` に格納されています。
7. Analytics Configurator を起動して Analytics を再設定します。詳細については、[4-8 ページの「Analytics の設定」](#)を参照してください。
8. 次のスクリプトを実行して Analytics データベースをパーティション化します。
 - AnalyticsPartition.bat (Windows)
`<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\bin\AnalyticsPartition.bat`
 - AnalyticsPartition.sh (UNIX)
`<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\bin\AnalyticsPartition.sh`

partition.log ファイルには、パーティション化の進行状況がリアルタイムで表示されます。このログは、次のディレクトリに格納されています。

 - `C:\bea\alui\ptanalytics\2.0\logs` (Windows)
 - `/opt/bea/alui/ptanalytics/2.0/logs` (UNIX/Linux)

次の表に、Analytics データベースのパーティション化のおおよその所要時間をまとめます。

表 5-2 Analytics データベースのパーティション化の所要時間 - Analytics 1.2 から 2.0

ファクトの総数	パーティション化の所要時間
1,000 万	12.5 分
2,000 万	25 分
5,000 万	62.5 分
1 億	2 時間 5 分
5 億	10 時間 50 分

アップグレード

9. **(Oracle のみ)** データベースに付属している分析ツールを **Analytics** データベースとポータル データベースの両方に対して実行し、データベースの効率を向上させます。
10. **Interaction** コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-14 ページの「Interaction コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
11. **Image Service** コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-16 ページの「Image Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
12. **Analytics** サービスを一旦停止してから再開します。詳細については、[4-19 ページの「Analytics サービスおよびポータル サービスの開始」](#)を参照してください。
13. 移行パッケージをインポートして、**Analytics** アプリケーション、リモート サーバー、ウェブ サービス、およびポートレットをポータルに登録します。この操作を **6.x** ポータルで実行する場合は、[4-20 ページの「ポータルへの Analytics の登録」](#)を参照してください。**5.x** ポータルでの移行パッケージのインポートについては、『**プラムツリー コーポレート ポータル管理者用ガイド**』を参照してください。
14. **Automation Service** コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-17 ページの「Automation Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
15. **Automation Service** に **Analytics** ジョブを追加します。詳細については、[4-21 ページの「Automation Service への Analytics ジョブの追加」](#)を参照してください。

Analytics バージョン 1.1 から 2.0 へのアップグレード

この節では、Analytics 1.1 から Analytics 2.0 にアップグレードする方法について説明します。

Analytics 1.1 から Analytics 2.0 にアップグレードするには、次の手順に従います。

1. Plumtree Analytics サービスが実行中でないことを確認します。
 - Windows の場合 : Windows のコントロール パネルで [管理ツール | サービス] を選択します。Analytics サービスが実行中である場合は、サービスを右クリックして [停止] を選択します。
 - UNIX の場合 : `<PT_HOME>/ptanalytics/1.1/bin/analyticsd.sh stop` コマンドを使用します。
2. Plumtree Analytics Collector サービスが実行中でないことを確認します。
 - Windows の場合 : Windows のコントロール パネルで [管理ツール | サービス] を選択します。Analytics Collector サービスが実行中である場合は、サービスを右クリックして [停止] を選択します。
 - UNIX の場合 : `<PT_HOME>/ptanalytics/1.1/bin/collectord.sh stop` コマンドを使用します。
3. `PT_HOME\common\container\tomcat\5.0.28\work` ディレクトリ内の **Analytics** フォルダを削除します。
4. Analytics サービスをインストールします。詳細については、[4-2 ページの「Analytics サービスのインストール」](#)を参照してください。インストール ディレクトリを指定する画面が表示されます。既存のソフトウェアと同じ場所にインストールする場合は、デフォルトのインストール ディレクトリをそのまま使用します。

注意： スクリプト ファイル **sync.bat** は削除されます。**AnalyticsRunJobs.bat** ファイルが追加され、Automation Service ジョブとして自動的に実行されるようにスケジュール設定されます。
5. **upgrade_1.x_to_2.0.sql** スクリプト
(`<PT_HOME>/ptanalytics/2.0/sql/<database>\upgrade_1.x_to_2.0.sql`) を実行して Analytics データベースをアップグレードします。

アップグレード

6. portal_security_service_install.sql 設定スクリプトを、ポータル データベースに対して実行します。このスクリプトは、<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\sql\mssql\ に格納されています。

7. Analytics Configurator を起動して Analytics を再設定します。詳細については、[4-8 ページの「Analytics の設定」](#)を参照してください。

注意： 1.1 から 2.0 へのアップグレード中に Analytics Configurator を実行する場合は、すべてのデータベースで API サービス URL およびパスワードを再入力する必要があります。

8. 次のスクリプトを実行して Analytics データベースをパーティション化します。

- AnalyticsPartition.bat (Windows):
<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\bin\AnalyticsPartition.bat
- AnalyticsPartition.sh (UNIX):
<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\bin\AnalyticsPartition.sh

collector.log ファイルには、パーティション化の進行状況がリアルタイムで表示されます。このログは、次のディレクトリに格納されています。
<PT_HOME>\ptanalytics\2.0\logs\collector.log

次の表に、Analytics データベースのパーティション化のおおよその所要時間をまとめます。

表 5-3 Analytics データベースのパーティション化の所要時間 - Analytics 1.1 から 2.0

ファクトの総数	パーティション化の所要時間
1,000 万	12.5 分
2,000 万	25 分
5,000 万	62.5 分
1 億	2 時間 5 分
5 億	10 時間 50 分

9. **(Oracle のみ)** データベースに付属している分析ツールを Analytics データベースとポータル データベースの両方に対して実行し、データベースの効率を向上させます。

10. Interaction コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-14 ページの「Interaction コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。

Analytics バージョン 1.1 から 2.0 へのアップグレード

注意： Analytics 2.0 へのアップグレードでは、ポータル サーバーから Analytics Service サーバーへのイベント メトリクスの送信に使用するポートが 31314 に変更されます。ポータル サーバーと Analytics Service サーバーの間の 31314 ポートが開かれていることを確認してください。Analytics で使用するその他のポートの一覧については、[2-4 ページの「Analytics で必要なポート」](#)を参照してください。

11. Image Service コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-16 ページの「Image Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
12. Analytics サービスを一旦停止してから再開します。詳細については、[4-19 ページの「Analytics サービスおよびポータル サービスの開始」](#)を参照してください。
13. 移行パッケージをインポートして、Analytics アプリケーション、リモート サーバー、ウェブ サービス、およびポートレットをポータルに登録します。この操作を 6.x ポータルで実行する場合は、[4-20 ページの「ポータルへの Analytics の登録」](#)を参照してください。5.x ポータルでの移行パッケージのインポートについては、『プラムツリー コーポレート ポータル管理者用ガイド』を参照してください。
14. Automation Service コンポーネントをインストールします。詳細については、[4-17 ページの「Automation Service コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
15. Automation Service に Analytics ジョブを追加します。詳細については、[4-21 ページの「Automation Service への Analytics ジョブの追加」](#)を参照してください。

アップグレード

トラブルシューティング

この付録では、インストールおよび設定のプロセスにおいて問題が発生した場合のトラブルシューティングについて説明します。以下のトピックについて説明します。

- [インストール ログおよび設定ログの概要](#)
- [インストール時および設定時の一般的な問題のトラブルシューティング](#)

注意： Analytics の実行時のトラブルシューティングについては、『BEA AquaLogic Interaction Analytics 管理者用ガイド』を参照してください。

インストール ログおよび設定ログの概要

次の表に、Analytics のインストール時および設定時のトラブルシューティングに使用できるログについての説明と格納場所をまとめます。個別のログ ファイルは日付別に生成され、その日に発生したアクティビティを記録します。

表 A-1 Analytics のインストール時および設定時のトラブルシューティングに使用するログ

ログ	説明	格納場所およびプラットフォーム
AquaLogic_Interaction_Analytics_<version>_InstallLog.log	Analytics のインストール時のアクティビティおよびエラーの詳細を提供します。	<ul style="list-style-type: none">• C:\bea\alui (Windows)• /opt/bea/alui (UNIX/Linux)
ptanalytics_deploy.log	Analytics のインストール時のその他のアクティビティおよびエラーの詳細を提供します。	<ul style="list-style-type: none">• C:\bea\alui (Windows)• /opt/bea/alui (UNIX/Linux)

表 A-1 Analytics のインストール時および設定時のトラブルシューティングに使用するログ

ログ	説明	格納場所およびプラットフォーム
configurator.log	Analytics Configurator のアクティビティおよびエラーの詳細を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> • C:\bea\alui\ptanalytics\2.0\logs (Windows) • /opt/bea/userinteraction/ptanalytics/2.0/logs (UNIX/Linux)
partition.log	<p>Analytics データベースのアップグレード時の初期パーティション化に関わるアクティビティおよびエラーの詳細を提供します。初期パーティションは、AnalyticsPartition.bat スクリプト (Windows) または AnalyticsPartition.sh スクリプト (UNIX) を実行して作成します。</p> <p>注意： collector.log ファイルは、Analytics の実行時に発生する定期的なパーティション化に関わるアクティビティおよびエラーの詳細を提供します。詳細については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics 管理者用ガイド』を参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • C:\bea\alui\ptanalytics\2.0\logs (Windows) • /opt/bea/userinteraction/ptanalytics/2.0/logs (UNIX/Linux)

インストール時および設定時の一般的な問題のトラブルシューティング

次の表では、インストール時および設定時の一般的な問題と、その解決策について説明します。

表 A-2 インストール時および設定時の一般的な問題とその解決策

問題の説明と詳細	原因と解決策
<ul style="list-style-type: none">• 問題 : Configurator による設定接続性のテストでエラーが発生する。• 詳細 : Analytics Configurator での作業を完了すると、接続性がテストされてエラーが生成される。	<ul style="list-style-type: none">• 原因 : Configurator に提供された情報が正しくない。• 解決策 : スペル、大文字小文字など、Configurator に提供される情報が正しいことをもう一度確認し、Configurator を再実行します。

Analytics のアンインストール

この節では、Analytics のアンインストール方法について説明します。

Windows での Analytics のアンインストール

Windows で Analytics をアンインストールするには、次の手順に従います。

- Windows のコントロール パネルの [プログラムの追加と削除] ユーティリティを使用して、Analytics のアンインストール ウィザードを起動します。

UNIX/Linux での Analytics のアンインストール

UNIX および Linux プラットフォームで Analytics をアンインストールするには、次のいずれかを実行します。

- Analytics 2.0 にアップグレードした場合は、
`/opt/plumtree/uninstall/ptanalytics/2.0/Uninstall_Plumtree_Analytics` を実行して Analytics 2.0 のアンインストーラを起動します。
- Analytics 2.0 をインストールした場合 (Analytics 2.0 にアップグレードしていない場合) は、`/opt/bea/userinteraction/uninstall/ptanalytics/2.0/Uninstall_Plumtree_Analytics` を実行します。

索引

A

Analytics

Automation Service へのジョブの追加
4-21

アップグレード パス 5-1

設定 4-8

ポータルとの互換性 2-3

ポータルとの時刻の同期 4-3

ポータルへの登録 4-20

Analytics Configurator

実行 4-8

Analytics サービス

インストール 4-2

Analytics ジョブ

Automation Service への追加 4-21
追加 4-21

Analytics データベース

作成 4-4

パーティション化 (1.1 アップグレード)
5-6

パーティション化 (1.2 アップグレード)
5-3

ホスト コンピュータ要件 2-3

Analytics ホスト コンピュータ

要件 2-2

analytics5.pte 4-20

analytics6.pte 4-20

Automation Service

Analytics ジョブの追加 4-21

Automation Service コンポーネント

インストール 4-17

B

BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービス

UNIX での開始 4-20

Windows での開始 4-19

BEA AquaLogic Interaction Analytics サービス

UNIX での開始 4-19

Windows での開始 4-19

C

Collaboration

互換性要件 2-3

configurator.log A-3

I

Image Service コンポーネント

インストール 4-16

Interaction コンポーネント

インストール 4-14

IPv6 のサポート 2-2

O

Oracle データベース

作成 4-6

P

partition.log A-3

Plumtree Analytics ポータル コンポーネント、

Interaction コンポーネントを参照

ptanalytics_deploy.log A-2

Publisher

互換性要件 2-3

S

SQL Server

データベースの作成 4-4

Studio

互換性要件 2-3

U

UNIX

Analytics サービスの開始 4-19

W

Windows

Analytics サービスの開始 4-19

あ

アップグレード

Analytics 1.1 から 2.0 の手順 5-5

Analytics 1.2 から 2.0 の手順 5-2

い

移行パッケージ 4-20

インストーラ ファイル名 4-2

インストール要件 2-2

インストール ログ A-2

し

ジョブ

Automation Service への追加 4-21

そ

ソフトウェア要件 2-2

て

データベース

SQL Server の作成 4-4

デフォルトのインストール ディレクトリ

Analytics サービス 4-3

デフォルト ポート

アプリケーション ポート 4-3

と

ドキュメント 1-3

は

ハードウェア要件 2-2

ふ

ブラウザ要件 2-3

ほ

ポータル

Analytics との互換性 2-3

Analytics との時刻の同期 4-3

Analytics の登録 4-20

ポート要件 2-4

ろ

ログ A-2